

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：北上川水系の復旧・復興事業における環境配慮について		
水系／河川名：北上川水系北上川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：10150km <sup>2</sup>	整備計画流量：7200m <sup>3</sup> /s(W=1/90)	セグメント：2-2
事業：環境整備	事業開始年度	平成24年度
目標設定：定性的	段階	C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：貴重種・特定動植物の保全、湿地、ヨシ原の保全・再生・創出		
工法(主な)：移植、植樹、その他		
配慮事項(主な)：施工管理、委員会、協議会等の開催		

### 背景・課題、目標設定

#### 【事業の背景】

東北地方太平洋沖地震に伴う津波と広域地盤沈下により北上川水系では多大な環境変化が生じ、復旧・復興事業の実施にあたっては大震災を生き延びた生物への配慮も課題となった。

#### 【事業の目的】

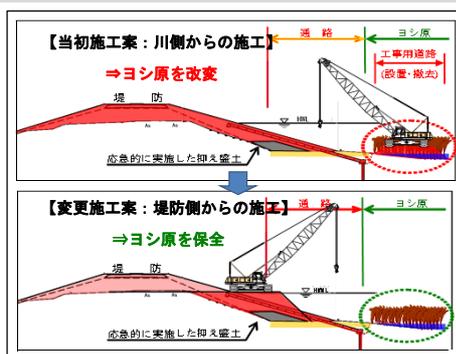
- ・ 震災による河川環境への影響とその後の回復過程のモニタリング
- ・ 被災域及び復旧・復興事業箇所の生態系や自然環境の保全



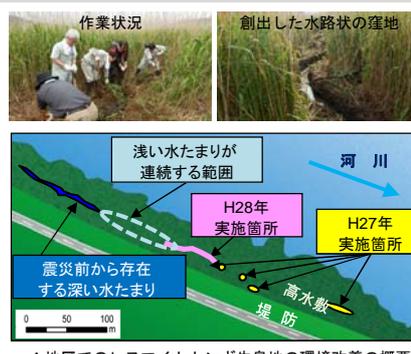
東日本大震災後の北上川河口部の地形変化

### 取り組み内容・対策例

- ・ 生物基礎調査、指標生物調査、物理環境調査を実施。さらに、ヨシ原とヒマイトンボについて、減少・回復の過程と生息適地を継続的に調査。
- ・ 復旧・復興工事における環境配慮、ヒマイトンボ生息地の環境改善、植物重要種の保全を実施。
- ・ 「北上川下流生物環境検討会」を設置し、学識者などの意見をモニタリング・環境整備事業に反映。



堤防復旧工事におけるヨシ原の保全例



A地区でのヒマイトンボ生息地の環境改善の概要

### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

#### 【本事業の成果】

- ・ 大震災の河川環境への影響とその後のゆるやかな回復過程を把握し、その要因を生息環境調査等により推測。
- ・ 調査結果を基に、復旧・復興事業箇所における環境配慮、保全の取り組みを実施。
- ・ 特に重要種であるヒマイトンボについては、モニタリングを実施して生息条件を把握し、有識者の意見も踏まえながら順応的管理・保全活動を実施。

#### 【今後の課題】

- 復旧・復興事業の進捗と合わせ、ヒマイトンボの保全やヨシ原の回復には長期間を要することから、以下が今後の課題である。
- ・ 事業箇所における環境配慮の継続、保全したヨシ原や重要種のモニタリングの継続
  - ・ ヒマイトンボの生息環境の順応的管理と長期的な保全活動の体制づくり

### 備考